

時間の都合により、今月はまとめのみの報告とさせていただきます。

留学が始まった当初は9ヶ月を非常に長い期間だと感じていましたが、留学が終わった今は初めてアメリカに行った日のことが昨日の様に感じられます。それだけこの留学生活が私にとって充実したものだったということでしょう。

英語力に関して言えば、9ヶ月の留学生活では英語がペラペラに喋れるようになるころまでは成長することはできませんでした。しかし、元々の私の英語力を考えると本当に英語に耳が慣れ、英語が話せるようになったと思います。これで私の派遣留学は終わってしまいますが、この留学が私のスタートとなるよう日本に帰ってからも英語を勉強することをやめず、今以上に成長できるように努力していきたいと思っています。

私はこの留学生活を通し、私が今まで持っていなかった多くのモノを得ることができました。中でも一番大きいのは、日本という国を見るときと比較対象を持つことができたことです。それは国そのものであったり、社会であったり、文化であったり、言語であったり、これまでの自分の生活であったり、様々な場合があるが、どれをとっても留学前の自分では決して見ることのできない見方ができるようになりました。また、新しいことにチャレンジするとき、努力をすれば大抵のことは何とかできるという自信を持つことができるようになりました。私自信、留学前の大学3年間を通して大きく成長できたと思っていました。しかし、この9ヶ月の留学生活はこれまでの大学生活と同等以上の成長を私に与えてくれました。

最後に、このような貴重な機会を下さったローズハルマン工科大学と金沢工業大学の石川憲一学長、佐藤恵一教務部長、札幌野順教授、坂本康正教授、をはじめとした多くの先生方、国際交流室の皆様方、そして、資金的な援助をしていただいた金沢工業大学理事長、さらに、物心両面でささえていただいた両親に感謝の意を表し、この報告書のまとめとします。